

令和4年度第1回 大阪市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会（会議要旨）

1 開催日時 令和5年3月16日（木）午後2時～午後4時

2 開催場所 大阪市役所屋上階 P1 会議室

3 出席委員 11名

（来庁）有本委員、奥井委員、笠原委員、小嶋委員、武智委員、
手嶋委員、永岡委員、中村委員、野口委員、藤井分科会長

（Web）佐田委員

※五十音順

※Web出席委員について、映像と音声により委員本人の確認を行った。

4 議事

- （1）地域福祉にかかる実態調査結果について
- （2）大阪市地域福祉基本計画の進捗状況について
- （3）次期大阪市地域福祉基本計画について

【議事（1）】

・事務局から資料に沿って説明

（主な意見）

- ・女性に比べて男性の活動の活発性が低いのではという感覚を受けた。より活性化するための仕組み、仕掛けみたいなものが必要だろう。
- ・世論調査から、SOSを発信しにくい社会になっているのではないかと感じた。「特にない」や「無回答」というのは、推測だが非常に大きな意味があるのではないか。
- ・年齢別のことは、年配の方の方が熱心に回答する傾向があるので、全体を平均すると若い層の傾向と年配層の傾向が見えてこない。
- ・当事者の立場で、どういう心配やつながりの難しさがあったのか、各分野の調査の同じような項目で、どう感じているか、どういうことを求めているかが見られたらよい。
- ・前回調査とそれほど変わらないということは、一般住民で平均するとコロナの大変な時期でも何とか持ちこたえてたかという感想もある。
- ・一方、例えば貧困世帯であるとか、障がいのある方がどう影響を受けたのかなど、特に高齢者などは認知症や閉じこもる方が増えている傾向もあり、この辺りをしっかり各分野別の調査からの抽出や各団体からのヒアリングなどで拾っていただけたらと思う。
- ・今後コロナの感染症が収束しても、訪問の仕方を考えるとか、連携の取り方を考えるとか、

地域としっかりと取り組んでいかないといけない。

- ・民生・児童委員は基盤中の基盤であり、今後地域福祉計画の中で、民生・児童委員に対する支援策をどう考えたらいいのかというのは、重要である。

【議事（２）】

- ・事務局から資料に沿って説明

（主な意見）

- ・課題もしっかり考えた上で、計画に生かせるような、PDCAが回るような評価であって欲しい。
- ・文章に何行かでもいいから、大阪市が誇る地域福祉で障がい者のことを考えている、ということをやったっていただけたらありがたい。
- ・前回と比べて、地域につながりを感じることがある、というのが少なくなったということは、町会役員をやっている、感じている。地域で大規模なマンションが新たに建っても、ほとんど町会には入らないので、地域とつながりがなくなってくる。
- ・大阪市は高齢者の人口や高齢者のいる世帯の比率が全国に比べても高い。高齢者が孤独を感じている、不安が増えているという事だが、もう少し具体的に、高齢者の方にポイントを当てていただきたい。

【議事（３）】

- ・事務局から資料に沿って説明

（主な意見）

- ・新たな課題のところで、大阪で万博が開催されるが、障がいや何らかのケアが必要な方への配慮等について、何かしら計画を建てておかないと、突然には動かない。新たに付け加えて欲しい。
- ・世論調査等でも、社会福祉協議会と他の自治組織との関係性が曖昧なところ。社会福祉協議会の活動が裏方になって、色々な活動と連携しているところがあるので、そういうところが見えたらよいと思う。
- ・市社協の活動推進計画も同じように策定中なので、地域福祉基本計画とどう連携するのか。早い時期から、一緒に議論ができる機会をお願いしたい。
- ・基本計画の１ページ目の地域福祉とは何かというところ。やはり地域のつながりとかだけじゃなく、地域の福祉を支える制度の基盤等、もう少しこの１ページの説明よりも広げてきちっと書いておくと他の関連分野との関係などについても、明確になるのではないかなと思う。
- ・第２期成年後見制度利用促進基本計画では、持続可能な権利擁護事業という、日常生活自

立支援事業と成年後見制度の間のようなことを想定している事業があり、この事業の実施について、専門家会議でもかなり前向きに実施するよう推進されている。

- ・日常生活自立支援事業、大阪市でのあんしんさぼーと事業にもかなり影響を受ける大きな変革になると思うので、十分注視して次の計画立てていただきたいと思う。
- ・各区が地域の主体で多様に地域福祉計画を作ってやっていくということであるが、多様性だけでなく全市的な共通基盤を作るのが市の計画である。
- ・その市の計画の共通基盤の中に、一つは市としてやっていくことと合わせて、多様性というのはいいが、各区の地域福祉計画の質のばらつき、要するに具体的な取り組みの、レベルの格差をなくしていくという、基盤整備の部分の事業や取り組みについて、前計画では不明確だったと思う。どのようにそこをしっかりと進めていけるのかが課題。